

会 議 録

1 会議名

第2回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

（1）開会

（2）あいさつ

（3）議事

ア 教育・保育施設の利用定員について

イ その他

3 開催日時

令和3年11月18日（木）午前10時00分から午前11時00分

4 開催場所

文化会館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：平澤会長、安藤副会長、深井委員、松崎委員、熊田委員、柳澤委員、石田委員、山田委員、網谷委員、中條委員、飯塚委員、秦委員、白石委員、久保田委員、森岡委員、柳委員、岩井委員、永井委員
- ・ 事務局：大山健康子育て部長
こども課 米山課長、八木副課長、武藤主事、木村主事
- ・ 関係課：保育課 小山課長、小山副課長、渡邊副課長、近藤係長
教育総務課 岩野係長、風間主事

8 発言内容

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

ア 教育・保育施設の利用定員について

近藤係長：参考資料、資料 1、資料 2-1、資料 2-2、資料 2-3、資料 3 に
より説明

(質疑応答なし)

イ その他

平澤会長： 日々の生活で地域の子どもたちを見つめる中で、保育、教育で気
になることがあれば意見がほしい。合わせて、本日の議事「教
育・保育施設の利用定員について」も気づいたことがあれば意
見を伺いたいが、いかがか。

柳委員： 資料 3 にある「上越市全市における児童数推計」の数字に驚い
た。令和 6 年には、こんなに少なくなるとショックを受けたが、
行政のほうで、子どもの数が増えるような施策や考えがあれば
聞かせてほしい。

米山課長： 上越市全体の人口も下がっているが、その中でも子どもの人口
が特に下がっているのは、我々も承知をしている。当市は様々
な子育て支援を行っているが、少子化対策に直接繋がっている
かということ、繋がらない部分もある。今ここで明確な回答はで
きないが、積極的にいろいろ施策を考えていながら、対策を
進めていきたいと思う。

柳委員： コロナ禍ということで、小学校の学校行事が少なくなっており、
子どもたちの様子を見る機会が大変少なくなっている。小学校
や幼稚園に上がる段階の子を持つ保護者の気持ちを考えると切
なく思う。また、来年入園する園に 1 回しか行けておらず、心
配であるという声を聞いたり、小学校の運動会が人数制限で行
われ、保護者や兄弟、地域との交流もなくなっていたりする。そ
のことについて、何か考えがあれば聞きたい。

小山課長： 保育園では、去年の 4 月から今年度の第 5 波の収束までは、行
事を縮小したり、参加できる保護者の方を限定したりという対

応をしてきたが、現在は少し状況が落ち着いていることもあり、行事については、感染予防に努めながら可能な限り対応し、保護者に活動実態を見ていただいたり、人数制限も少しずつ緩和したりしている。また、入園前に見学したい方については、夏まではコロナに対する心配がかなりあったので遠慮いただいたり、一定程度制限を設けたりしていたが、その後は、見学や説明の希望があった時には、感染予防に気をつけながら、対応していきたいと思っている。

平澤会長： 園の保護者代表の方、日頃感じていることがあれば意見願う。

深井委員： 子育てを機に、東京から上越市に引っ越して来た。移住の理由として、地方で育てやすいことと、幼稚園、保育園がすごくバラエティーに富んでいるということがあった。都会と比べて園の選択肢がないのではないかと不安だったが、少し調べたら個性的な幼稚園、保育園がたくさんあるということがわかり、引っ越してきた。そのため、認定こども園への移行がずっと制限され、遅れていたことは、Uターンをしてくる人たちにとってはマイナスだったのではないかとと思っている。選択肢を広げることは、上越市外の子どもたちが移住してくることに繋がっていくと思う。子どもが少ないと園で取り合うことになるので、抑えてきたという点もあると思うが、今回、バラエティー豊かな園を選べるような環境を作ってくれていると感じ、感謝している。

山田委員： 新型コロナウイルスについての話があったが、やはり感染対策が難しい。園でできる限りの感染対策は行い、保護者にも呼びかけているが、保護者や職員は気をつけていても、保護者の職場の人が気をつけていない場合や、または、会議などの外出の機会など、感染のリスクが至るところに潜んでおり、本当に難しく感じている。保護者からもご理解いただき、ただ、ひたすら気をつけ、取り組んでいくしかないと感じている。

また、先ほど懸念のあった行事について、2回目ワクチン接種率の増加や感染者数の減少を受け、感染対策を心がけつつ、保護

者の皆様にも安心して行事を楽しんでいただけるようにと望んでいる。当園では12月に発表会があり、通常だとクラスを分けずに保護者に同じ時間にご覧いただくが、今年はクラスごとに時間を分け、保護者の方は二名までとし、クラスとクラスの間には30分の間隔を設けて換気をしたり、他クラスとの接触はなるべくないようにといった配慮をしながら、実施を計画している。

石田委員： 私たちの幼稚園・保育園は、感染対策をかなり前から園内徹底しており、昨年早々から感染防止ガイドラインを作り、取り組んでいる。行事においては、率直に言うと園側としたらやりたい。子どもたちの成長・発達を見ていただきたいと思うし、一般の方、未就園の子にも来ていただき、運動会や発表会も見ていただきたいし、ワクチンの接種や新薬の開発など希望が出てきているとも思うが、手放しでコロナ前と同じことができるかといったら、まだまだであり、密を避けながら人数制限しながらやることしかできないかなと思う。一般の方にご理解いただきながら、活躍の場を段階的にお見せしていければいいと思っている。

中條委員： もともと少子化のうえ、コロナの影響で予定されたよりもっと出生数が減るといふ事態が起きている。子どもの数が減ると子育てがしにくくなる。身近に子どもがいなくなるので、孤立の深まりがさらに早まると危惧している。親の孤立が深まることや、行き場所をなくしてしまう人が出ることを、行政の方でも大事に考えて事業や制度を整備してほしい。それが虐待予防にも繋がると思うので、育てやすいまちであって欲しいと願う。もう1点、県のヤングケアラーの検討会議に出席したのだが、ヤングケアラーをどうやって地域で見つけていくかという議題で、特に年下の子どもの面倒を過剰に見ている子どもを発見することが大事であるとの話だった。幼稚園、保育園、地域子育て支援拠点など、地域の子育て支援をしている人たちが発見しやすいと考えられ、県の方でも子育て施設で働く方たちに対し

での啓発に力を入れるという話だったので、上越市でも、来年度の職員研修などの際に、考えておかなければいけないテーマとして取り入れていただけると良いと思う。

小山課長： 資料 3 にある、上越市全市における児童数推計（保育課試算）について、かなり驚かれた方が多かったようであるが、これはあくまでも保育課において粗い計算で出したものということをご理解いただきたい。令和 3 年は実績値で、令和 4 年の 1 歳児は令和 3 年の 0 歳児から、令和 5 年の 2 歳児は令和 4 年の 1 歳児及び令和 3 年の 0 歳児から同じ数字を持ってきており、極めて単純な推計方法になっている。転入転出であったり、いろいろな諸事情で増減することもあるので、傾向として、このようになるということを押さえた推計であると承知をしていただき、あまり悲観的にならずに、どうやったら少しでも上向きにしていけるかということ、皆さんからお知恵をいただきたいと思っている。

網谷委員： 中学校現場から子どもの実態について報告する。祖父母の様子が少しおかしい、もしかして認知症じゃないかという声が生徒からあり、中学 1 年生を対象に認知症サポーター養成講座を事業として行った。昨年は全校生徒で行い、今年はカリキュラム上一年生のみの実施。また、明日は全校生徒を対象に、高齢者福祉体験事業ということで、車椅子体験や体に重しをつけた状態で行う体験を行う予定である。今後ますます高齢化社会が進むと思うが、小・中学校においてもそのような事業を行っていく。また、子どもの自殺の問題について。国や上越市でも施策として大変にご苦労いただいているところであるが、学校現場においても、とにかく子どもたちの表情をよく見て、職員が一刻も早く察知をし、発見して、すぐに関係機関につないでいる。子どもたちの生きにくい時代がこれからも続くと思うが、教育現場から、しっかりと対応して参りたい。

岩井委員： コロナが妊婦に影響があるのかどうかについて、お腹の中にい

る赤ちゃんに悪い影響がないということはないと思うが、医学的な所見を出し、妊娠してもコロナの影響はないというようなことを言えば、出生数の増加に繋がると思う。なかなか難しい話だが、行政が医療機関等に働きかけて、確認していただけないか。また、上越市内のヤングケアラーの件について、実数や実態について行政の方で、何らかの形で調査をし、報告していただければと思う。

石田委員： 人口減少に関連して、コロナによって少子化が早まり、来年は出生数がガクンと下がり、上越市も余波をくらうと思われる。今回、新しい市長になったので、ぜひとも少子化対策に期待している。また、保育業界で、当市だけではなく全県下において圧倒的に保育士不足である。今回多くの園が認定こども園へ移行し、おそらく相当な保育士が必要になると思う。保育士への志望学生が約4割減っていると言われており、市場に出てくる保育士はもっと減ると思われる。首都圏では保育園ができたが保育士がいらないというケースも起きており、今後、全国や上越市でもそのようなケースが出てくるかと思う。保育の質の向上も難しくなるので、保育士不足について、新市長体制のもとぜひ検討していただきたい。

9 問合せ先

健康子育て部こども課企画管理係

TEL : 025-520-5725 (内線 1234)

E-mail : kodomo@city.joetsu.lg.jp